



拝啓 自衛隊の皆様へ

匿名希望



自衛隊の皆様には、日夜、私共国民を護るため、ご精励頂きまして心より感謝申し上げます。

私共の長男は、令和5年の4月より陸上自衛隊に一般陸曹候補生として入隊し、約一年間の勤務の後個人的な理由から退職しました。今回、この一年間を振り返り、大変お世話になった方々に感謝の気持ちをお伝えしたく、投稿しました。

息子は、帰省して来る度に、部隊内での事をよく話してくれました。最初の教育部隊では、新入隊員に対して丁寧に教育や訓練を行って頂いたことに、親としてとてもありがたく感じました。

その後、野戦特科隊の通信小隊に所属となりましたが、息子は飲み込みが遅いので、先輩、上官方にもいろいろ迷惑をおかけしているに違いないと思っていました。しかしながら、息子の話から、いつも実技や試験等について何回となく本人がボーダーラインに達するまで、何度も何度も繰り返しご指導を頂き「人材を大切にしている」ことが伝わってまいりました。

何より本人が挫けそうになった際には、先任上級曹

長より「一番は一人しかねないけれど、努力はいくらでも出来る」のお言葉をはじめ、「陸上自衛官である前に、一人前の社会人となる事が目標なんだよ」等、今日の社会では大切なながらも、とすると忘れがちな内容を日々の訓練を通じて繰り返して頂いており、学校や親の教育では叶わなかった「人間としての教育」を行って頂いていると、とても有難く感じました。

また、先輩や上官方より、温かいお言葉を入れ替り頂き、陸上自衛隊に「一つ家」の様な厳しい中にも温かみを感じました。運動部経験等のない息子ですが、言葉遣いや姿勢が良くなり、帰省時等には家の手伝いで直ぐに片付けてくれたりもし、陸上自衛隊に入隊した事により、成長させて頂いた事を実感出来ました。ここに感謝の気持ちを申し上げます。

これからも皆様のご活躍を祈念しております。ありがとうございます。



人、時との出会い 自衛隊

茨城県自衛隊家族会 柴田 均



息子が自衛官になってから早十八年が経ちました。東日本大震災派遣・東京オリンピック支援等様々な任務を果たしてくれたようです。家では、多くを語らない子なので、彼の仕事内容は未だ謎です。

しかし、わかっていることもあります。彼のおかげで私たち家族が、たくさんの「人、時との出会い」に恵まれたということです。

彼が小六の時、同年代の兄弟がいる自衛官一家との出会いが始まりです。家族ぐるみで交流があり、その時にかなり仕込まれたのではないのでしょうか。高三の進路決定に際し、迷わず自衛官を目指したのも不思議ではありません。また、陸自最後の曹候補学生の募集に間に合ったのも偶然ではないような気がします。そのご家族には今でも感謝しております。

曹候補学生として自衛隊生活をスタートさせた息子。親としては「大丈夫かな」と心配することしかできません。前期教育の入校式修了式に参加させていただき、区隊長や班長から「心配いりませんよ」と声掛けをいただき安心したことを思い出します。感謝です。

さらに、彼・そして同期の皆さんが、たった三か月間の教育

で、見違えるように立派に成長していました。自衛隊の教育力に驚嘆しました。私も教育を仕事としてきましたが、とても及びません。自衛隊の教育の質は最高レベルです。間違いありません。

これからもたくさんの「人、時との出会い」が、彼を育て、自衛官としての人生を歩み続けることでしょう。楽しみです。

そして、私自身も「自衛隊応援団」として自衛隊や家族会の皆様との出会いを続けていけるよう願っております。



海上保安官の父より 海上自衛官の息子へ

神奈川県自衛隊家族会 清水 孝

私の息子は、練習艦隊司令官(今野泰樹海将補)率いる練習艦「かしま」に実習幹部として乗艦し、令和5年10月20日に遠洋航海実習から東京国際クルーズターミナルに帰国しました。

父親である私の職業は海上保安官です。

息子が海上自衛隊幹部候補生学校に入校する前から現在に至るまで、息子といろいろな話をしましたが「誰のために仕事をするのか」という一言に尽きると思います。

一般の会社勤務される方々は「お客さまのため、会社のため、自分のため、家族のため」が一般的であるかと思いますが、海上自衛官、海上保安官は「自分のため、家族のため」の前に「国民の皆さまのため」に仕事をしなければならず、怖いから、家族が危険だからといって、職務から逃げ出すことは許されません。

そのような意識を醸成するため、全寮制で厳格な規律のもと、一定期間集団で生活することを義務付けられているのです。

私が海上保安官としてこれまで勤務した中で、何よりもうれしく思ったことは、検挙した被疑者、被災した被災者、救助した要救助者から「本当にありがとうございます」と言われたことです。とても励みになります。

なぜなら、場当たりのあいさつ代わりの「ありがとう」とは

違い「反省させてくれてありがとう」「命を救ってくれてありがとう」など「ありがとう」の重みが違うからです。

ただし、この「ありがとう」を聞くことができるのは、日々の訓練など研鑽を積んでこそ、できるものです。そうでなければ、国民の皆さまの生命、財産を守ることはおろか、自分の命すら守ることができないからです。

自衛隊も都道府県知事や管区海上保安本部長などからの要請に基づく「災害派遣」があり、これにこれまで従事した方々も多いと思います。

この時には、まさに普段の研鑽がものをいうはずです。私たち親子も普段から研鑽を積み、組織は違えど、国民の皆さまから本当の「ありがとう」をいただけるようまい進する所存です。



高等工科大学校記念行事に参加して

岩手県 千葉 文彰

この度、令和5年9月30日と10月1日に開催された陸上自衛隊高等工科大学校創立68周年記念行事に参加してまいりました。

令和5年春、私の息子は15年間過ごした故郷岩手を離れ、幼いころからの目標だった高等工科大学校第69期生として入校しました。入校したとはいえ、わが家には自衛隊関係の親族もなく、学校生活を知る手段は、テレビ番組の特集や地方協力本部の広報担当者からのお話、そして息子からの電話などに限られておりました。

入校するまでにある程度の理解はしていたものの、入校後に知った高等工科大学校の様子は、見ることも聞くこともすべてが初めてのよう感じました。しかしそれも、きっと私の想像でしかなく、そんな中で、唯一、学校生活をのぞくことができる機会が、この創立記念行事であり、当日は、妻とともに、長男に会える期待と少々興奮を感じつつ駐屯地の門をくぐりました。

以前はコロナ禍により、中止もしくは規模を縮小して開催されたとのことでしたが、今回は5類への移行に伴い、従来の形に近づいた開催になったそうです。イベントの中には、生徒たちの日々の文化活動成果をさまざまな形で披露・展示する機会

として、ドリル演技や吹奏楽部の演奏、和太鼓演奏など、多くの催しが企画されていましたが、規律ある中にユーモアを交えた素晴らしい演技の披露に、生徒の親として高等工科大学校の教育に、ますます理解を深めることができました。そして、式典などで見た彼らの真剣なまなざしは、未来の日本を背負ってゆく頼もしさを強く感じられ、これも生徒の親として、また、一人の日本人として心強く思いました。

私も、これからは多くの隊員への支援活動に力を注ぎたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。





子供たちの成長と親の想い

千葉県自衛隊家族会 安藤 金吾



私には5人の子供がいます。女子が1人、男子が4人の兄弟です。自衛隊との関わりは、平成26年に長男が陸上自衛隊高等工科学校を受験したことから始まりました。

現在、長男は陸上自衛隊相馬原駐屯地に勤務し、次男は旭川駐屯地に勤務しています。

そして、令和6年の4月からは、三男が防衛大学校に入学し、四男が自衛官候補生として陸上自衛隊に入隊しました。

私自身は自衛官ではなく普通の会社員ですので、三男と四男が自衛官を選んだのは、兄たちの影響が大きいと思います。

5人兄弟のうち4人が自衛隊で働くこととなり、入校式や入隊式などの自衛隊の行事に参加する機会も増え、親として感じたことを率直につづらせていただきます。

自衛隊入隊後の休暇など、子供たちに会う度に彼らの「成長」を感じます。子供の教育を自衛隊に任せてしまったようで申し訳ない気持ちもありますが、自衛隊は本当に人を成長させてくれる組織だと強く感じています。

また、成長した子供の姿を見るたびに、親として誇らしく思うと同時に、子供に負けられない自分も頑張ろうという気持ちに駆られます。

ただ、自衛隊という特殊な組織のため、子供に会いたい時に会えないことや、子供を助けることができない無力さもあります。親はただ子供の幸せを祈ることや、心配することしかできませんが、それは子供が立派に巣立った証だと思い、子育てが終わった親に残された最後の仕事だと自分自身を納得させています。

そして、子供たちが巣立ってしまった今、ふと考えることがあります。決して裕福な家庭ではありませんでしたので、子供たちに不自由な思いをさせたのではないかと、本当にこれでよかったのかと。

しかし先日、次男から電話があり「小さい頃は兄弟が多くて欲しい物も買えず貧乏だったけれども、幸せだった」と話してくれたと妻から聞き、長年の胸のつかえが取れた思いでした。

妻と私が生きている間は、ずっと子供たちの幸せを祈り、心配し続けていきたいと思っています。



成長を感じた娘の涙

神奈川県自衛隊家族会 芝本 美枝子



寒さの残る令和6年3月初旬、私は娘が勤める航空自衛隊小牧基地のオープンベースに行ってきました。前日の予行では娘に基地を案内してもらい、思い出深い一日となりました。

娘は大学でジャーナリズムを学び、卒業後はニュース番組制作に従事していましたが、令和5年春に航空自衛隊に入隊しました。

幼い頃の娘は表情豊かで可憐な女の子でしたが、いつしか我慢強く、よくいえばしっかり者、悪く言えば感情を出さない甘え下手になりました。私は小学3年生以来娘が泣くところを見たことがありませんでした。きっと人知れず泣くこともあったと思うし、生きづらさを感じているのではないかと心配していました。娘が入隊し、離れて暮らすようになると、ますます不安は大きくなりました。

ところが、令和5年夏に教育隊の卒業式に行った私は自分の目を疑いました。娘が仲間と大声で笑い、人目をばからず号泣していたのです。驚く私に、娘は満面の笑みで「つらかったけど楽しかった!」と話してくれました。

航空自衛隊に入隊したことで、娘には安心して本音を言える仲間ができ、信頼関係を築くことができたのだと思いました。

そんな娘を見て、私も涙が止まりませんでした。

娘はまだまだ未熟で自衛隊員としても、人としても、学ぶことが多いと思います。楽しいことばかりでなくつらいこともあるでしょう。厳しい環境にあっても、同期の仲間とともに強くなりたいと思います。





「自衛官のすすめ」

東京都自衛隊家族会 松尾 隆一



私は陸上自衛官OBで、3人の子供達のうち2人は自衛官として勤務しています。30数年の自衛官生活について振り返ってみると、半生を懸けるに値する誇らしくも又充実したものでした。子供達も私の想いを胸に、積極的に「自衛官」を選んでくれました。なぜ私たちがそう思っているのか皆さんにご紹介したいと思います。

肯定的な側面

○自衛官（諸外国では軍人）は、国のために命を懸けて職務を遂行する崇高で誇らしいもの

○あらゆる機能の職域があり、自分の適性に合った職務に就ける

○海外訓練・勤務の機会が、比較的多い

○同期生という生涯の友が得られる

一見否定的と思われがちな側面

○給与や福利厚生が良くない（諸外国軍人に比べれば不十分）

良くないとはいえ、子供2人を家から私立大学に通わせ、細やかですが首都圏に自宅を持てたという点で、生涯所得は人並み以上だと思えます。（贅沢はせず普通の生活が前提ですが）

○定年退職年齢が他に比べて早い

50代半ばでの退職は、他の公官庁より早いです。しかし会社員であれば、早期退職して新たな職域で働ける世代とも言えます。私

の体験から自衛官としての勤務経験は民間でも必ず役に立ちます。

○転勤が多い

全国各地での楽しい思い出は、貴重なものです。訓練や勤務で海外での得難い経験もありました。

○有事になれば危険？

有事の際、自衛官は日本国の領土領海領空を守るため任務を遂行します。現代においてはウクライナ戦争の例に見られる様に、前線後方に関わらず国民全体が危険にさらされます。そうならないように平時から訓練を積み重ねているのが自衛官です。有事に対応できる自衛隊であるからこそ抑止力として機能して平和を維持し、災害派遣にも充分対応できるのです。

自衛官への応募に特別な能力は必要ありません。ごく普通の

高校生大学生や社会人が、自衛隊の段階的な「人を育てる」教育を経て一人前の自衛官に育つのです。そして必ずや近い将来、諸外国並みの名誉と処遇が与えられるでしょう。



「家族の声」への 投稿募集！

7月末迄

皆様のご自慢のご子息ご息女の

入隊・入校にまつわるお話を募集いたします。

文章（600字程度）と写真を下記アドレスにお送りください。

たくさんのご投稿をお待ち申し上げます。

jkazokukai@jkazokukai.or.jp

